
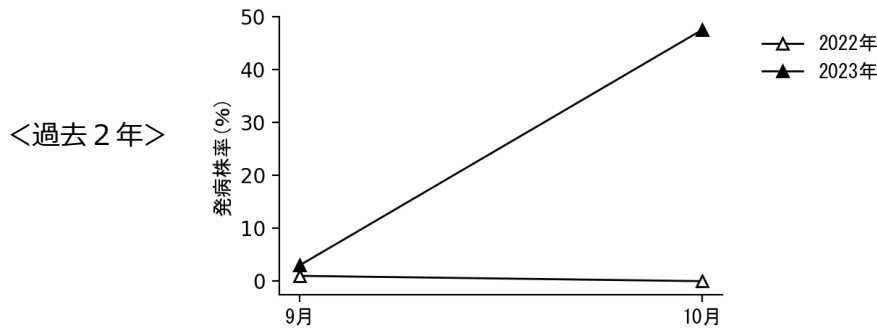
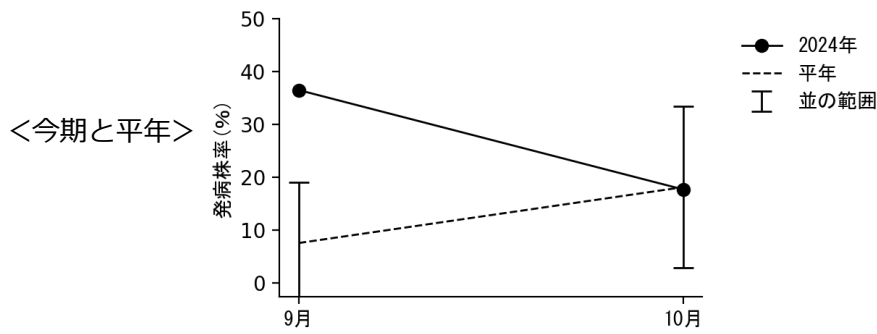


作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	葉いもち病		
調査結果	10月の発生量（平年比）	並	
予報	10月からの増減傾向	—	
	11月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果


発病株率の推移



・発生ほ場率42.9%（平年：56.0%）

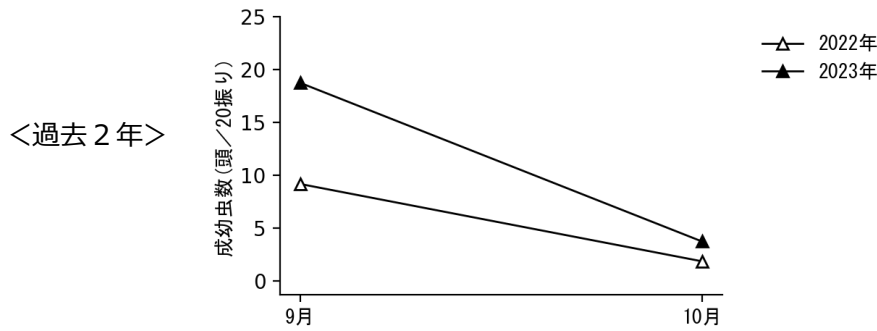
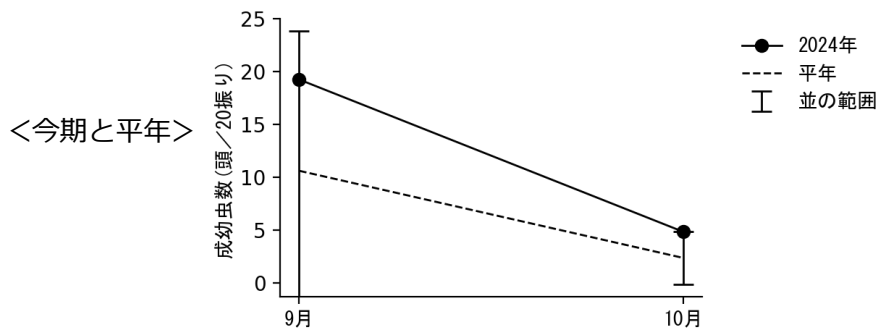
防除のポイント

- ・収穫後の被害わらは次作の感染源となるため、水田付近に放置しない。
- ・汚染もみは次作の感染源となるため、発生ほ場からは採種しない。

作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	セジロウンカ		
調査結果	10月の発生量（平年比）	並	
予報	10月からの増減傾向	—	
	11月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果


成幼虫数の推移



・発生ほ場率85.7%（平年：58.4%）

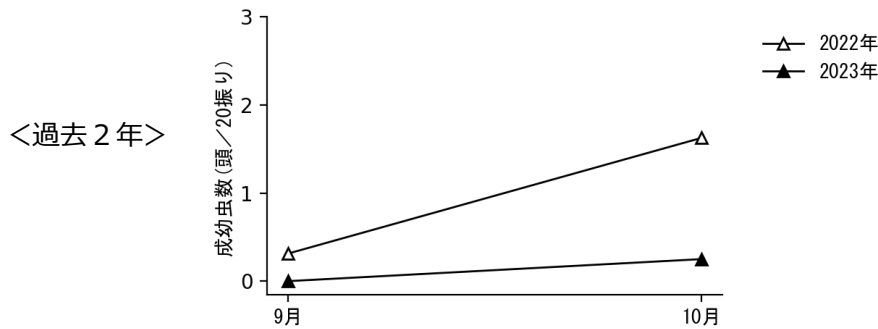
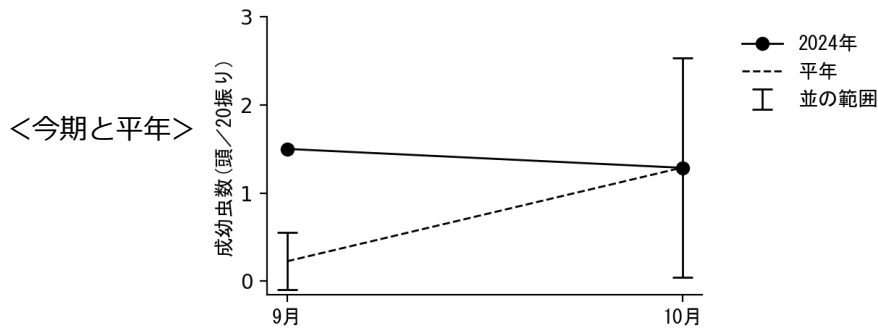
防除のポイント

・ウンカ類は株元に生息するため、薬剤防除を行う場合、株元に十分に薬剤がかかるように心がける。

作物	水稻（2期）		地域	八重山群島
病害虫名	ツマグロヨコバイ			
調査結果	10月の発生量（平年比）	並		
予報	10月からの増減傾向	—		
	11月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				

調査結果


成幼虫数の推移



・発生ほ場率57.1%（平年：41.0%）

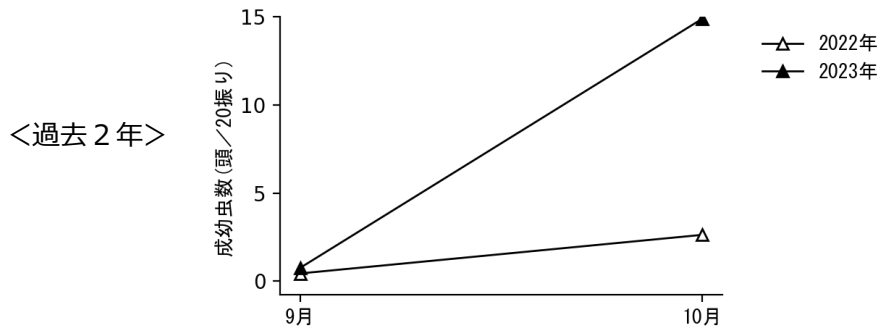
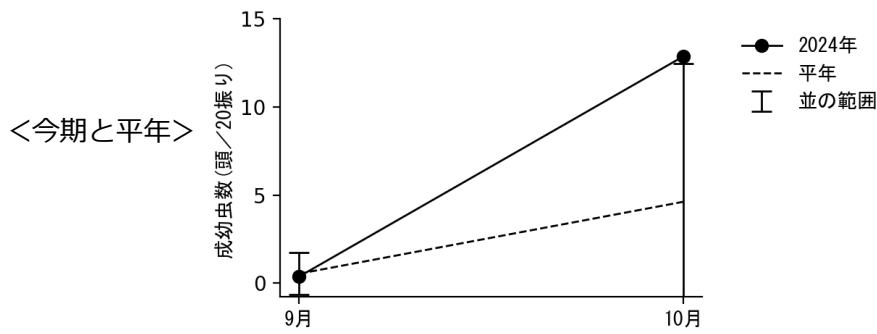
防除のポイント

- ・水田周辺の雑草防除を行い、発生源を少なくする。

作物	水稻（2期）		地域	八重山群島
病害虫名	斑点米カメムシ類			
調査結果	10月の発生量（平年比）	やや多		
予報	10月からの増減傾向	—		
	11月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				

調査結果

成幼虫数の推移



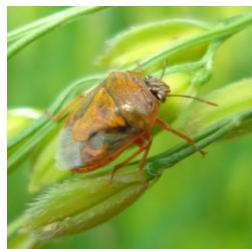
・発生ほ場率100%（平年：57.2%）

防除のポイント

・次作に向けた密度低減を図るため、畦畔および水田周辺の除草を行う。




ホソハリカメムシ



アカカメムシ

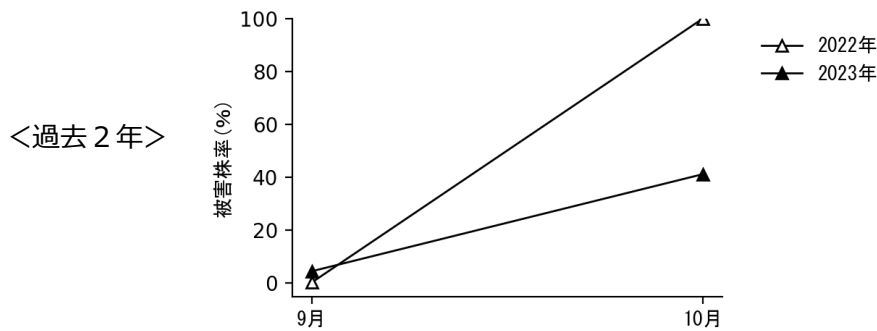
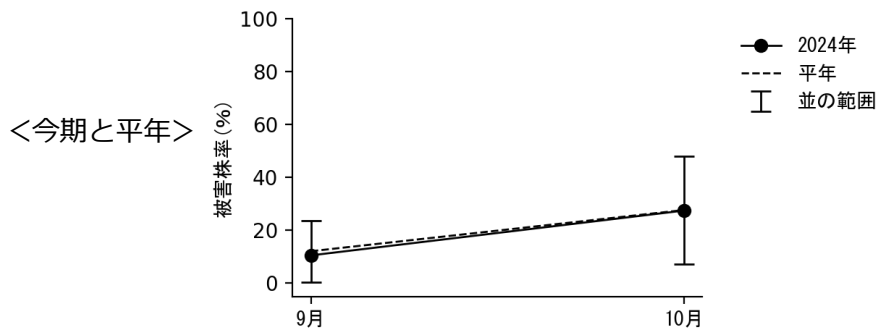


斑点米

作物	水稻（2期）		地域	八重山群島
病害虫名	コブノメイガ			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並		
予報	10 月からの増減傾向	—		
	11 月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				

調査結果


被害株率の推移



・発生ほ場率100%（平年：58.4%）

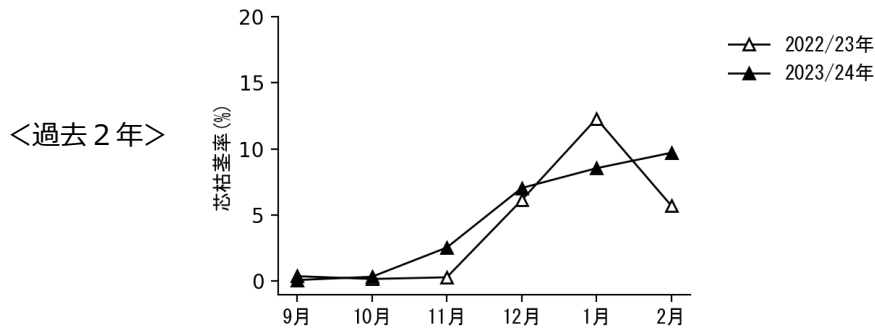
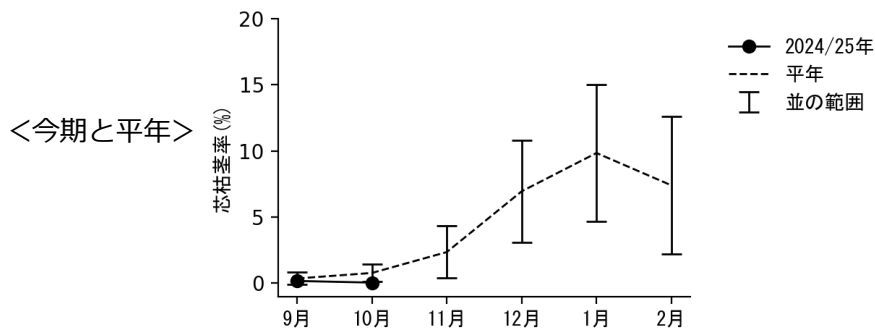
防除のポイント

- ・次作に向けた密度低減を図るため、収穫後に畦畔および水田周辺の除草を行う。

作物	さとうきび		地域	八重山群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	やや少		
予報	10 月からの増減傾向	↗		
		11 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果


芯枯莖率の推移(夏植え)



・発生ほ場率8.3% (平年 : 53.2%)

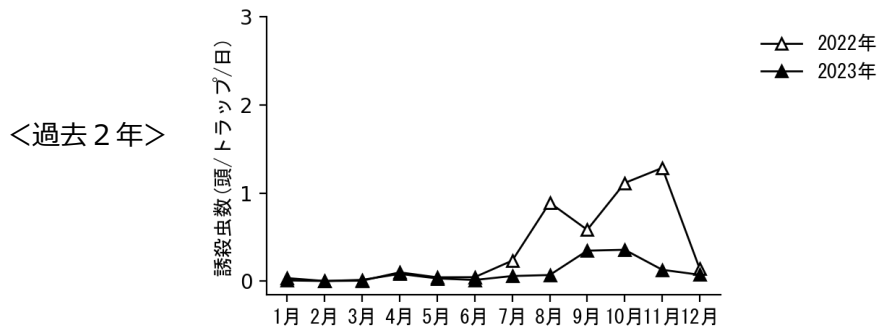
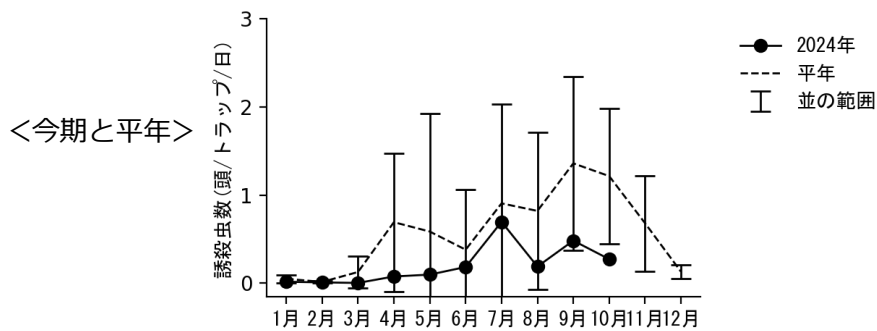
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ莖を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効莖を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・莖葉への乳剤等の散布は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報	10 月からの増減傾向	↓	
	11 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移




・発生施設率100% (平年 : 98.0%)

防除のポイント

- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

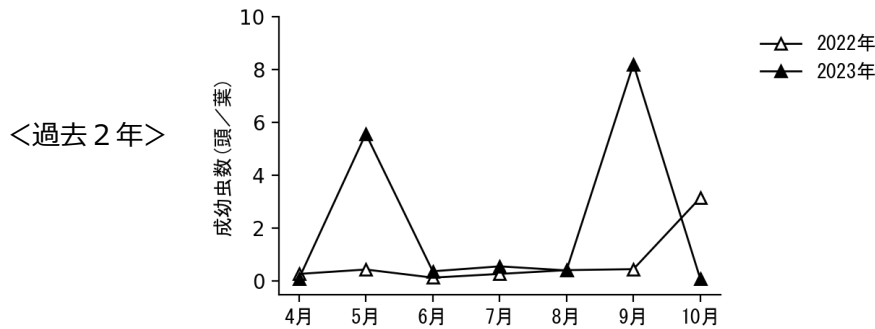
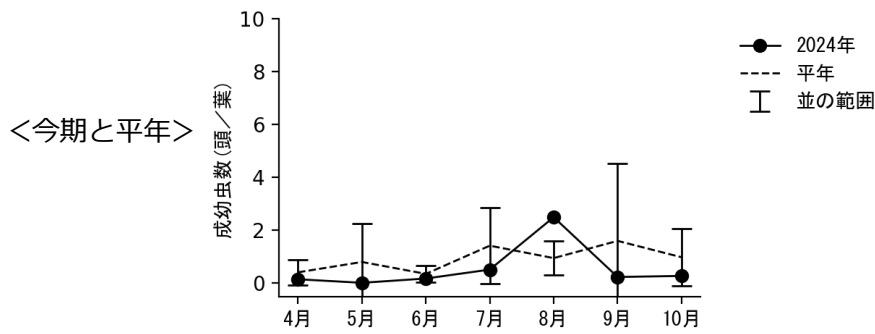


ナガエコミカンソウ

作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	フタテンミドリヒメヨコバイ		 <p>成虫</p>
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報	10 月からの増減傾向	—	
	11 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率80.0% (平年 : 90.4%)

防除のポイント

・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

